平成 24 年度「みえの現場・すごいやんかトーク」（鈴鹿市）の概要

１０月２１日（日）に鈴鹿市加佐登町「みささぎの郷」で「みえの現場・すごいやんかトーク」を開催しました。

当日は、「特定非営利活動法人こどもサポート鈴鹿」及び「みささぎの郷里山づくりの会」の皆さん１２名の方にお集まりいただき、活動内容や将来への思い、行政へ期待していることなどについて、ご意見などをお伺いしました。

トークに先立ち、車椅子で加佐登神社に参拝できるよう整備されたバリアフリーレーンや里山での作業の様子をご案内いただきました。

子どもたちが落ち葉を集める作業をされていました。

【参加者からの発言】

参加者の皆さんからは、以下のようなご意見をいただきました。

- 子どもたちが自然体験、人との交流体験など様々な活動体験を通して、楽しみ、学び、自分の考えを表現したり、人と共感することができる感性を育んでほしいと活動している。
- みささぎの郷里山づくりの会は、加佐登神社の境内の山林が松くい虫の被害により枯木が多くなったことから、平成６年１月 19 日に設立し、現在 12 名のメンバーで活動している。
- 感性が大事であり、見て、触って、感じることで感性が育つ。子どもたちにとって、みささぎの郷では、すごくいい体験ができる。
- 里山での体験を通じて、子どものなかで自然と出来る子が出来ない子に手を差し伸べるようになるのを見ると嬉しくなる。
- みささぎの郷に遊びに来た５歳位の子どもが、親から言われていないのに「おじちゃん今日は有難うね」と言ってくれたのが嬉しかった。
- 高齢化社会を迎え、仕事ばかりしていた男性が地域活動に入っていくためには、高

齢者人材バンクが必要である。
地域に溶け込めるように、退職前にセミナーを開催し、男性の地域での活用を考える必要がある。普段から地域のイベント等に参加していないと地域に溶け込めない。今後は、年寄りの力を活かしていくべきだ。

○ 「みささぎの郷」には、ダム湖完成や鈴鹿市政 60 周年を記念して桜の苗木をもらい合計約 800 本の桜がある。あと 200 本増やして千本桜の山にしたい。

○ 補助金ばかりをあてにしていないが、継続していかないと意味がない。コンサルタントに講師を頼むのではなく、NPO に講師の依頼があるなどお金が循環する仕組みに援助いただきたい。

○ 白鳥塚は、県の史跡であり、維持管理は大変で、草刈には、ガソリン代も必要であり、史跡を管理するための補助金を増やしていただきたい。

○ 景行天皇が在宅になった碑が三重県の名前で設置されているが、周囲が荒れている。維持管理していくことも考えていただきたい。

【知事の発言】

皆さんからのご意見を受け、知事からは次のような発言がありました。

○ 民が民を支援する仕組みについては、県もこれから研究をしたいと思う。

○ 文化財保護協会から史跡関係の管理について話をいただいているので厳しい財政状況であるが考えていきたい。

○ あるもの探しというか、自分たちの身の回りにある良いものや守りたいものを大切にしていくことが、地域あるいは人それぞれの人生において大切なことだったり、充実感につながる。

当日来ていただいた、こどもサポート鈴鹿及びみささぎの郷里山づくりの会の皆様